

2016年度 特命子ども地域アクター事業 成果発表会

青少年をまちづくりに巻き込むとなにが起こるか？

【日時】 2017年2月19日(日)13:30～17:30 (12:30 開場)

* 12:30 より会場にてパネル展示

【参加費】 無料

【会場】 横浜市立大学ピオニーホール

【主催】 かながわ子どもの地域社会参画推進会議

NPO 法人 ミニシティ・プラス (事務局)

神奈川県県民局次世代育成部青少年課

NPO 法人シャーロックホームズ

リスト株式会社

NPO 法人横浜プランナーズネットワーク

NPO 法人アクションポート横浜

NPO 法人夢キューブ

スマイルミニシティ・プロジェクト

【協働】

神奈川県県民局次世代育成部青少年課

産業労働局中小企業部商業流通課

県土整備局都市部都市整備課

教育局指導部高校教育課

【協力】 横浜市立大学国際総合科学部 国際都市学系まちづくりコース

本事業は「かながわボランティア活動推進基金 21 協働事業負担金」により運営されています。

本日の流れ

1. 本事業について
2. アクター自己紹介
3. 派遣団体の特命事項と実施の報告
4. こどものまちづくり応援事業

*** 休憩 *** 休憩の間に質問をぜひ出してください。ポストイットを用意しています。

4. アクター & まちづくり団体のフリートーク
5. 質疑応答(開場からの質問)
6. 推進会議からのコメント
7. まとめ

27 年度特命子ども地域アクター

- 溝口 万智 (ミゾグチ マチ)横浜市立中川西小学校 5 年生
井藤 木香 (イトウ コノカ)横浜市立勝田小学校 5 年生
カ石 愛梨 (チカライシ アイリ)横浜市立中川西小学校 5 年生
明保能 春希 (アケボノ ハルキ)横浜市立北山田小学校 5 年生
岡野 直樹 (オカノ ナオキ)横浜市立中川西小学校 5 年生
岡野 夏希 (オカノ ナツキ)横浜市立中川西小学校 5 年生
福井 奏心 (フクイ カナミ)横浜市立勝田小学校 5 年生
林 和奏 (ハヤシ ワカナ)横浜市立中川西小学校 5 年生
辻本 咲月 (ツジモト サツキ)横浜市立中川西小学校 5 年生
宇津山 鳳雅 (ウツヤマ フウガ)横浜市立美しが丘東小学校 5 年生
洲濱 泰 (スハマ タイ)横浜市立城郷小学校 6 年生
- 村田 美優 (ムラタ ミユウ)横浜市立都田中学校 1 年生
梶村 あゆみ (カジムラ アユミ)神奈川県立相模原中等教育学校 1 年生
田島 春那 (タジマ ハルナ)川崎市立宮崎中学校 1 年生
市川 姫菜 (イチカワ ヒナ)横浜市立東山田中学校 1 年生
清水 八雲 (シミズ ヤクモ)横浜市立都田中学校 1 年生
折谷 紗朋子 (オリタニ サホコ)横浜市立東山田中学校 1 年生
森田 智大 (モリタ トモヒロ)横浜市立都田中学校 1 年生
橋本 みなみ (ハシモト ミナミ)横浜市立中川中学校 2 年生
森田 響香 (モリタ キョウカ)横浜市立中和田中学校 2 年生
草郷 紗麗 (ソウゴウ サラ)横浜市立中川西中学校 2 年生
洲濱 森 (スハマ シン)横浜市立篠原中学校 2 年生
結城 凜太郎 (ユウキ リンタロウ)横浜市立今宿中学校 2 年生
直枝 遼菜 (ナオエ リョウマ)横浜市立荏田南中学校 3 年生
- 矢野 颯人 (ヤノ ハヤト)星槎高等学校高 1 年生
高崎 明日香 (タカサキ アスカ)関東学院高等学校 1 年生
薬師川 朋里 (ヤクシガワ トモリ)関東学院高等学校 1 年生
杉本 葵 (スギモト アオイ)神奈川県立吉田島総合高校 1 年生
茂川 亜実 (モガワ ツグミ)御殿場西高等学校 1 年生
高橋 亜仁多 (タカハシ アニタ)町田調理師専門学校高等課程 1 年生
稲葉 朋香 (イナバ トモカ)普連土学園高等学校 1 年生
三木 麻里奈 (ミキ マリナ)神奈川県立山北高校 1 年生
中村 実優 (ナカムラ ミユ)さくら国際高等学校 1 年生
明保能 まな美(アケボノ マナミ)星槎高等学校 2 年生
井上 恵彰 (イノウエ ヨシアキ)神奈川県立松陽高校 2 年生
福永 圭吾 (フクナガ ケイゴ)中央大学附属横浜高等学校 2 年生
百崎 佑 (モモザキ ユウ)橘学苑高等学校 2 年生
照井 聖和 (テルイ セナ)神奈川県立神奈川総合高校 2 年生
花岡 直幸 (ハナオカ ナオユキ)神奈川県立横須賀高校 2 年生
矢野 淳奈 (ヤノ ジュンナ)横浜翠陵高校 3 年生
白坂 光 (シラサカ ヒカル)神奈川県立麻溝台高等学校 3 年生
遠山 辰之真 (トオヤマ タツノシン)神奈川県立城山高等学校 3 年生

27年度派遣14団体

1. NPO 法人海の森・山の森事務局
2. 株式会社三浦海業公社
3. NPO 法人フォーラム・アソシエ
4. 特定非営利活動法人神奈川まちづかい塾
5. 横浜市中川西地区センター
6. NPO 法人かながわ311ネットワーク
7. ふらっとステーション・とつか
8. 大倉山おへそ
9. かながわブラインドスキークラブ
10. 湯河原駅前通り明店街
11. 寒川駅北口商店会
12. 戸部大通り商店会
13. ハッピーサークル
14. 鋼管通商栄会

こどものまちづくり応援事業

1. 松田町国際交流イベント(足柄上郡)
2. 防災訓練こども参画(横浜市都筑区)

0. 最初のあいさつ、今日の全体の流れ説明(岩室)

1. 本事業について(三輪)

ミニシティ・プラスの理事長の三輪と申します。本業は、横浜市大のまちづくりコースの教師をしています。

この特命地域アクターの事業は、もともとは神奈川県青少年問題協議会の中で、議論をしていた、こども・青少年の社会参画について、机上だけでなく実際に動かしていく事業をやったほうが良い、ということで、神奈川県と協働事業として立ち上げた事業となります。

地域の中でこどものコミュニティが希薄になっている、異年齢のコミュニティの場がない、ということがあります。これは学校や家庭内だけでなんとかできる問題ではない、そういうことを制度的にできればいいなということで始まりました。

まちづくり活動をしている私たちミニシティ・プラスは、ミニヨコハマシティなどの、こどものまちなどを運営している団体なのですが、そういう団体だけでなく、まちづくりであったり、子ども支援であったり、企業であったり、、、そういった団体がタックを組んでその議論をする場として、かながわ子どもの地域社会参画推進会議(以下推進会議と略)という組織をつくりました。

本日は、そのかながわ子どもの地域社会参画推進会議より、横浜プランナーズネットワークから山路さん、NPO 法人アクションポート横浜の北川さん、スマイルミニシティプロジェクトの山家さん、株式会社リスト松本さん、NPO 法人夢キューブの高橋さん、そして神奈川県との協働事業ですので、神奈川県からは、青少年課の鈴木かおりさん、産業労働局商業流通課の鈴木博明さん、協働課の高橋さんも今日来てくださっています。(本日は欠席ですが、NPO 法人シャーロックホームズの東さんも参加してくれています)

次に、このプロジェクトの一年の流れについて説明します。4月5月がアクターとまちづくり団体の募集、6月7月で、まちづくりのいろは講座を受講し、勉強してもらいます。これは、横浜市大のまちづくりコースの大学2年生の授業に同行して一緒に勉強します。また、まちがどういうふうに出ているのか、まちにかかわっている人はどんな人がいるのか、などの基礎知識も学びます。アクターと団体とのお見合い会を行い、マッチングします。そして夏から秋にかけて、それぞれの派遣先での活動がはじまるということです。そして今日の成果発表会を迎えました。

アクターの応募なのですが、毎年増え続けています。今年は43名のアクター応募がありました。中には何年も継続参加している子どももいます。

アクターの本来目的は、毎年派遣するものではなく、他地域に行き、アクターの活動が起爆剤になって、地元のこどもたち、そこに住むこどもたちが参加するようになり、根付いていくことを目指しています。特命アクターは、その後身をひいていく、というようなことを考えています。「特命としてなにかコトをおこして帰ってくる」というようなイメージです。

一方アクターの受け入れ団体ですが、毎年要望が多くなっていますが、ていねいにおこなっていくため、来年は10団体にしぼろうかと考えています。団体の応募も、最初は横浜市内が多かったのですが、年々県域に広がっています。

また、今年のはじめて、こどものまちづくり応援事業をスタートさせました。こちらは6月に公募し、2件の応募があり、いずれも採択され、2事業を行いました。それについてものちほど報告します。

こちらは、こども自身がまちの課題に気づいたり、まちでなにかやってみたい、という提案に、少しですが、予算をつけ、大人が伴走するという事業です。こどもたちの思いが詰まった活動となりました。

私たちは、こどもがまちに参画することが当たり前になる社会を目指して、活動していますが、なかなか当事者からお金をとることが難しく、資金を集めるため、多くの人たちの理解を得て、サポートしてもらうことが課題となっています。

それではこれからは具体的な事業の報告に入っていきます。

2. アクター自己紹介

(名前、年齢、ひとこと PR)

この日に参加したアクターについてやスケッチブックのコメント別表

3. 派遣団体の特命事項と実施の報告

川崎市幸区 ハッピーサークル 徳植さん

特命事項)

初開催のハロウィンイベントを一緒に考え、実施してほしい

去年はしあわせまつり(幸区なので)をお手伝いした。

しあわせまつりは 4 年目となった。

ハロウィンをやることになり、参加者では 50 名くらいを見込んでいた。

はじめてのイベントだったことと、川崎東口では日本一のハロウィンパレードの行われる日なので、50 名参加してくれればいいなと思っていたのですが、100 名以上の参加があり、お菓子も景品も足りなくなる非常事態になった。お菓子をもらうお店が狭い間口のところは交通整理がたいへんだった。広報は、小学校 2 校、保育園、幼稚園などに配布、書く店舗での配布や、朝日新聞の折り込みにいれさせてもらった。

やったことは、ハッピーサークルに加盟しているお店を巡るラリー。合い言葉は「ハッピーハッピー!!」でお菓子をもらう。

みんなで一斉にあるく、ツアーを組んで回った。ゴールでおたのしみクジがひけるもの。13 時の回はごった返し、クジも行列ができた。

田島)最初の準備のときにまずハッピーサークル加盟のお店を取材した。みなさん話しやすく、やさしかった。

明保能)1 年目はおそばやさんを借りてイベントをやったんですが、今回そばやさんがつぶれちゃった。おそばやさんが美味しかったのに。

こどもたちが、自主的に動けることのすごさを目の当たりにした。どんどん自分で考えて、しかも楽しそうにやっている。地元のこどもが 1 人アクターにまじってお手伝いしてくれたけれど、最初ははじめなかったようだけど、最後には完全になじんでいた。

特命事項)

川の清掃活動、滝ツアーなどを体験してもらって、それをレポート記事にしてほしい。

最初は陸の方のゴミ拾い、川沿いのゴミ拾いを手伝った。大岡川ではゴミ拾いを定期的に行っている。キレイにしても、またすぐにゴミがある。ただ自分達で拾うだけでなく、参加してもらうことにより、ゴミを捨てる人がいなくなるだろうと思い、やっている。

次に川もゴミを拾いしようと、SUPにも挑戦してもらった。

最初はこわごわだったが、だんだん慣れてすいすいいくようになった。ただ、ゴミを拾えるように、なるまでにはもう1回くらい練習しないと難しいと思う。

滝ツアーにも参加してもらった。川の上流にもゴミがある。風で流されてきた発砲スチロールがこなごなになっているのをみんなで拾ったりした。

水は人の生活にはかかせない大切なものなので、きれいにしていないと、とそのような活動をしている。

今回、アクターのレポートを当団体が発行している大岡川新聞の新聞記事に掲載したら、大変好評で、広告協賛も増えた。

RY)ゴミ拾いをしましたが、毎回毎回60キロ以上のゴミを拾い、すごい衝撃を受けた。滝ツアーにいて豊田さんとたくさん話して、その活動に惹かれた。この経験を毎日の生活の中に活かしていきたい。

司会)そこまで惹かれたなら、豊田さんのNPOに入ったら？ぜひ行動してください。

KI)SUPでの川のゴミ拾いはとても難しかった。川で流れたゴミを魚が食べて、それを私たちが食べる、自分が汚すと自分達に戻ってきてしまうという、豊田さんのお話を聞きました。

MH)滝ツアーに参加して自然の大きさを感じました。写真で見ると小さく見えるんですが、スケールの大きさに感動しました。

岩室)2年続けて参加して、豊田さんのような活動をどう思いますか？

豊田)NPOの活動にはいって子分になりませんか(笑)？

KI. RY)なりたいです。

新聞は、広告を入れてくれているお店や市民活動支援センターや県サポなどにもおいている。購読料を払ってくれるサポート会員も募集している。

三浦市:三浦海業公社 内藤さん

特命事項)

マグロだけじゃない三崎のまちの魅力を伝えるウォークラリーの企画と実施。

三浦も2年目になる。1年目は、ウォークラリーがあつという間に終わってしまった、ということがあり、今年はもう少しゆっくり楽しめるウォークラリーにしたいと思った。

秘密の地図をつくって、ウォークラリーのミッション3つをクリアしてもらったイベントにしました。

今回は募集のチラシでこどもボランティアを募集。地元の子ども6名から応募があった。前日の打ち合わせではじめてあった地元のこどもたちとアクターと一緒に準備した。

三崎のこどもたちはおとなしい子が多く、横浜の元気な子たちに押されていたようで、最初はなじんでいなかったがすぐにスムーズになじみ、積極的に活動していた。

今回は古い昭和の道具を探したり、古い建物をめぐったり。

参加人数が、昨年より少なかったが、朝はかなり並んだ。

今年は協賛店舗も増えて賞品も増えた。

NO)本番に海賊王をやっていた。三浦の子どもたちから話しかけてくれてうれしかった。三浦のまちは、だがしやがあっていいなと思った。

横浜市港北区:フォーラムアソシエ 元木さん

特命事項)

こどもの居場所づくりの一環で、こどものまちをつくる場所をワークショップから行い、実際に運営する。

前半3日間はみんなで料理してごはんを食べ、その後ミーティングを行った。後半はまちをつくる準備とまちを運営した。

参加者が小さい子が多く、まちづくりの話合いは、KJ 方は難しいのではないかと思ったが、アクターがうまくリードしてくれた。アクターの積極的な発言にこどもたちも「〇〇がやりたい」と意見といえるようになった。

フォーラムアソシエでアクターにきてもらうのは2年目なのですが、昨年お金が10000オクタしかなく、とても不便だったので、今回は10と50オクタをつかった。

アクターの洲濱泰くんが市長になってリードし、なにかまちで問題が起こったら、みんなで話合った。

来年は、2年続けてきている子どもたちとその保護者を主体にしてこれからも続けていきたい。

こどもの自主性にまかせることで参加者の保護者がこどもの成長ぶりに驚いていた。「みんなが楽しい、みんながもうかるまちにしたい」というこどももいて、学びも多かったと思う。

TS)はじめてだったけど、兄にも手伝ってもらって、なんとかあったと思う。

ヘヴンタウンという名前に決まり、とくにまちで大きな問題は、おきなかったと思う。

AT)わーわーいっている子どもが嫌いなんだけど、なんとかやれました。

元木)みんな彼女をたよっていた。

AT)うるさかったけど(笑)

元木)洲濱くんには来年も市長をやってほしい

TS)まだわかりませんが。

神奈川まちづかい塾 欠席

特命事項)

都筑区内のお茶室を活用してなにかこどもたちのイベントをやってほしい。

お屋敷とお茶室のお掃除に参加。その後、企画を考えた。

近隣のコミュニティハウスと連携して、和紙の作品づくりをし、それをお茶室に飾ってイベントを行った。地元のこども 15 名ほどがイベントに参加した。

TM)お作法が難しい。本番では炭を炊いてお茶を飲んだので(いつもより)お茶がおいしかった。山北に住んでいるので和室は特別という感覚はない。昔の家をどのような形で残していくのか興味があったので、参加した。

中川西地区センター 赤木さん

特命事項)

まちを楽しむウォークラリーができるスゴロクの作成とまちあるき

中川のまちには、住んでいる人も知らない魅力がある。それを知ってもらいたいと企画。はじめはスゴロクをつくつもりで大人は準備していた。すると、高校生にはスマホでやってみたいということで、スマホ de ラリーという企画になった。そうしたらシニア層でスマホに興味のある人達もきてくれて意外な展開だった。GPS 情報でスタンプがとれるしくみを無料で借りることができる。ソフトバンクに無料で 20 台のスマホを貸してくれた。当日は、シニア層などにつきっきりで、ソフトバンクの人が対応してくれた。

お正月明けなので、七福神の格好をしてまちをガイドするラリーとなった。

YM)スタンプラリーというと、小さい子向けのイメージ。スマホをつかって、というのであれば、大人にとってもこどもにとっても魅力的なイベントになると思った。たまたま無料で使えるラリーというサイトを知っていたので、簡単にプログラムできるしいと思った。

岩室)ソフトバンクの人にトラブルシューティング対応のマニュアルなど高校生がつくって渡したら「すごい！うちの会社にきてほしい」と言っていたくらい。当日も本部でプログラムを監視したり、送られてきた写真をプリントしたりする裏方も高校生が対応した。

かながわ 311 ネットワーク 石田さん

特命事項)子ども向け防災プログラムのモニタリング。かながわボランティアフェスタでイベント(11月に行う)を企画

まずは、防災プログラムのモニタリング。アクター以外のこどもたちにも呼びかけ、15 名が集まり、おこなった。アクターはブログにレポートも書いた。

大人でも難しいようなプログラムを行った。DIG をいうカードをつかったカードゲーム、HUG という避難所運営のプログラムを体験した。学校などで使えるプログラムの開発をしており、どんなところを改善すべきかを検証したかった。とてもよかった。

11 月のイベントは、まずは横浜市の防災センターの見学をし、そのあとイベントの企画を考えた。「防災 GO!」をいう体験型のイベントになった。こどもたちが考えたので、こどもたちにブースを担当

してもらった。

栄区の小中学校にチラシを配った。会場にはたくさんの方が訪れた。「こどもたちがやっているイベントは入りやすい」「楽しいそうなので体験してみた」という人も多かった。

MM) (彼女はこども防災マイスターの資格がある)

応急手当を担当したけれど自分もとても勉強になった。意外にもたくさんの方が来て驚いた。

311 石田) 彼女のような人がいると心強い。311 に入って欲しい(笑)

ふらっとステーション戸塚 吉田さん

特命事項) コミュニティカフェに於いて、青少年がくるようなイベントを企画運営してほしい

最初はお店のようすを知るため、こども向けのイベントをお手伝いに行った。しかし到着するなり、たくさんの方のこどもたちの対応に追われ、コミュニティカフェの日常をみることはできず、あまり打ち合わせができなかった。その後もあまり打ち合わせができず、本番を迎えてしまった。

国際交流に興味があるというアクターが多かったので、カフェでの国際交流イベントに参加し、お手伝いした。終了後、このふらっとステーション戸塚というコミュニティカフェに、どうしたらこども、ワカモノがくることができるかの意見だしのワークショップを行った。

大倉山おへそ 小澤さん

特命事項) ハロウィンイベントをこども参画にしていきたい。

相模原の高校 3 年生が 2 人参加し、かなり会議をしきってくれた。

ミーティングでは、イベントへの参加は、女の子に比べて男の子の参加がすくないので、甲冑づくりをしたらどうか。港北区に小机城址もあり、親和性もある。「キミもイベントをつくってみないか？」というイベントのチラシのキャップコピーも考えた。

ハロウィン当日は、300 人以上が参加した。事前申し込みできなかった当日参加者にも楽しんでもらえるようなアクターの扮装武士による、クイズラリーイベントを行った。

アクターの人達やその他の高校生、まちの人達も手伝ってくれて、大きなイベントになった。まちの人におもしろがってもらってイベントに引き込んでいくと、参加してくれて、もっとおもしろいことができると思えた。イベントにただ参加するだけでなく、つくるところから人を巻き込んでいく、というやりかたをアクターに教えてもらった。もっと大きいことができるなと思った。

アクターの参加をみて、こどもたちがこれから運営に参加してくれると頼もしいと思う。

NO) 私は当日のみ大倉山のハロウィンパレードに参加した。ちいさな子どもも多かったけれど小学生とも知り合えた。もっと事前から参加して大倉山のことを知りたいと思った。

鋼管通商栄会 神奈川県の鈴木さん

特命事項) 鋼管通商店街のイベントを定着させるためのしかけづくり

8 年間でできなかった、商店街イベントを 3 年前はじめてアクターが入って、イベントが行えた。それから成長し、盛り上がり続けている。

今年は3つの新しいことができた。

1. 今回商店街を飾る旗を子どもたちが描き、飾った。(ブツブツ交換のイベントで昔、ブツブツ交換で食用カエルになっていたということがあったので、カエルの絵を描いた)
2. ブツブツ交換発祥の地の碑をつくり、飾った。
3. 今年は大人もたのしめるように、昔なつかしい「おべった」という食べ物を再現したり、和菓子やさんに相談しながらオリジナルの食べ物「カエル焼き」をつくった。

今年は昨年に引き続き、臨港中学の学生さんが企画からボランティア参加してくれた。これから地元の中学生と一緒にイベントをつくっていききたい。

岩室) (描いてある旗をみせて)これはなんの絵ですか?カエルが死んで魂が飛び出しているようですが。

TS)これは下書きに書いてあったのでボクはよくわかりません。

YS)ボクはモヒカンのカエルを書きました。

商店街の方からのコメント)

子どもたちと一緒にやって、こんなに楽しいと思ったことはありません、とコメントあり。

寒川商店街 欠席

特命事項)

4つの商店街を統合することになり、そのマップをつくる。

そのマップを一緒に考えてほしい。

子どもたちがまちあるきを行い、発見ポイントをマップに反映させる。

かわいくたのしいイラストのマップにしたらどうか、

棒コロケのキャラクターを地図の中で歩かせたらいいのでは?

などの意見出しがあり、まちあるきをして、アクターのコメントを地図の中に吹き出しをいれて、表示した。

KF)ちょうどポケモン GO が配信されて、そのポケストップに誘導されて、いろいろなものをみつけた。

岩室)古くて新しいまちなので、なかなか見つけるポイントが難しかったのかも。地図は枚数に余裕があるのでご興味のある方はお持ち帰りください。

戸部大通り商店街 欠席

特命事項)新しい住民が増える中、商店街を知ってもらいたい。そのために子どもたちやその保護者の方の集まるイベント(朝市)を行いたい。

地元の戸部小学校の子どもたちが参加してくれた。

戸部で飛べ、という歌をつくるワークショップを行い、

歌詞を戸部小のみんなと考えた。

ラップのように、歌詞を埋めていく作業をし、あとで編集作業をして、完成させた。それを戸部の銭湯を借りて録音した。湯気が立っていて録音にはちょうどいい感じだった。

子どもたちがすべてのお店の店長をした。当日来た子どももアルバイトをすると、チケットがもらえて、お店で遊んだり、買い物したりできるしくみ。

大人はチケットを現金で買ってもらう。

ものすごくたくさんの人でにぎわった。

でたお店は、駄菓子や、ココアなどを出すカフェ、オリジナルイラスト魚釣りやさん、ソースせんべ

い占い(ソースのシミで占いをする)、大人の悩み相談室、射的、ゲームセンター等。

大人の悩み相談室での相談内容にはどんなものがありましたか？

・こどもが野菜を食べないのでどうしたらいいか

→ハンバーグなどの中に食べない野菜を入れたら食べると思う

・ビールを飲み過ぎてる、どうしたらいいか

→車を使うようにしたら自動的に飲まないのではないか？

・仕事で疲れがとれない、どうしたらいいか

→野菜をたくさん食べて、人に優しくするといい。人に優しくすると優しさが返ってきて癒やされると思う

・今の仕事(公務員)を続けていていいか

→あなたの仕事は人のためになる大事な仕事なので、ぜひ続けてください

湯河原明店街 欠席

特命事項)こどもたちのアイデアでぶらん市を盛り上げる

こどもアルバイトシステムを取り入れ、当日お店のアルバイトやアンケート集めを行った。こちらには当日遊びに来たこどもたちがアルバイトをして、ご褒美にお菓子釣りができるというシステム。また、湯河原と明店街の、もの知りカルトクイズ大会を行った。事前にクイズ研究部所属の高校生アクターが問題のベースを考え、他のアクターからの問題もプラス、商店街に校正してもらい完成。それらを前日入りして模造紙に書き、当日は司会や進行などをすべてこどもたちでおこなった。ここにも当日アルバイトのこどもを採用して、にぎやかに行われた。

AT)クイズのときの司会を担当して、問題を読みました。

クイズの問題は難しく(三択なので)カンで答えている人も多かったのですが、湯河原のことをたくさん知れてよかったです。

KF)湯河原のクイズを書くのが思いのほか大変で、高校生から見ると、小学生がいっしょうけんめい書くのをはらはらしながら一緒にやってた。はじめて湯河原に来たのですが、駅前がけっこう質素、簡素な感じで、もっと温泉とかわき出てるイメージだったけど。

元木)当日大人ボランティア参加しました。アニメを売りだそうとしている変わった旅館に泊まった。

そちらも駅から離れた場所で、温泉街も商店街も駅からは少し離れている。

当日こどもたちが、まじめにみんなが働いていて感心しました。

ブライントスキークラブ 欠席

特命事項)視覚障害者との交流イベントを企画してほしい

ライトセンターでの視覚障害の体験をしました。

白杖を使って歩いたり。サウンドテニス、卓球をしたり。

MA)卓球の中に音のでるものが入っていて、それを聞きながら卓球をしたり。自分も1年くらい目が見えなかった時期があって、そのときのことを思い出しました。けっこう音をたよりにすると、当たります。体験はよかったです。

～休憩～

4. こどものまちづくり応援事業

はじめて、行った事業。いままでのアクターは大人の方からの課題提示をして、それに対して子どもたちと一緒に考えていくというスタイルでしたが、もしかしたら世の中には、自分で企画を考えてまちを変えていきたいという子どもがいるのではないかと、そういう子ども達の提案を応援する事業を立ち上げた。

今回はあまり大きくプレスリリースしなかったのですが、2件の応募がありました。この2件は、アクターからの応募だった。

1つは「防災子ども参画」。村田さんからの応募。実際に自分が横浜市大との連携事業などで、防災について勉強した経験を活かして、地域の防災訓練をお手伝いしたい、どうしたらできますかという応募。

NPOの方で都筑区役所の学校連携から地域の防災の委員会につないでもらい、準備会議に3名が出席し、当日防災訓練の運営に参加した。

防災委員会からは若い世代が関心をもってくれることを、とても喜んでもらった。中学校の校長先生も自分の中学から3人もボランティア参加していることを当日誇らしげに紹介してくれた。

村田)地域の防災訓練はぜんぜんひとが来ない。大人ばかりで子どもはほとんど来ない。大人ばかりでなく子どもにも関心をもってもらいたい、きてもらいたいとおもって、企画しました。HUGなどもとてもおもしろいので取り入れたりしてみたい。いつもは参加する側だったけど、お手伝いする側になると立場が変わって、やりがいを感じました。

森田)自分の知っている中学校の防災訓練には参加したことがなかった。はじめて参加して、体育館の中にいざというときに公衆電話を設置するケーブルがあったり、学校の駐車場に給水できる場所があったりすることを知ることができてよかった。

清水)森田さんと基本一緒なのですが、自分の中学の防災の備蓄庫をみたり、裏の緊急の水道があって、いい学校だなと思った。

3人)校長先生からがんばってるね～と言われた。

2つめは、「松田町での国際交流イベントの実施」です。

主に山北在住の子どもたちが応募してきたのですが、隣町でやってきた、国際交流イベントが今年はないかもしれないと聞いて、国際交流に興味のある高校生たち中心でできないかとの応募だった。

まずは松田町の町長さんや職員の方と相談し、松田町の子どもたちにも呼びかけるチラシをつくった。2名の応募があり、まずは横浜のみなどみらいで行われる国際交流イベントに参加。その日は大雨でなかなかテントの野外イベントはたいへんだった。そこで出会った出店者に声かけをして、松田町に出店してくれないかと声かけし、3店舗に参加してもらった。

スタッフ杉山)まちの方から、留学生、英語学校の教師などを招待してくれて、ワールドカフェを松田町で行った。

NPO 法人夢キューブ・高橋)自分の娘とその友人を中心に応募した。松田町ともそもそも交流があった。町長もとても喜んでくれた。

地元の子どもたちからの応募が少なかった。町の広報から募集した。
その子たちは、松田寺子屋塾に参加している子でした。

5. フリートーク

会場からの質問)

アクターをやらない？と友だちを誘うことがありますか？

YES という回答のアクターは……

MA) 進学に役立つよ、と誘った。1人、家に引きこもりがちな子に声をかけた。
外見そうは見えないけど、そういう子を誘いました。

TM) 妹を誘っている。アクターをやってみたら？と誘った。

RI) 友だちがいると派遣先もいきやすくなる。となりにいる福井さんも私から誘った。

KF) 井藤さんが誘ってくれて来てみたらとても楽しくて、だから友だちを誘っています。

TI) 私の友人が AO 入試を考えていて、そのために年間でボランティアできる場所を探している。
来年入りたいといっている。

NO) ミニヨコ(別のミニシティの活動)などにきていた子を誘います。

RY) 生徒会をやっている友人を誘いたいと考えています。

話をしてみたときに、興味がありそうな反応した子を誘うが、そういう子は少ない。

NO という回答のアクターは……

MH) 誘ってもへえすごいねと言われてしまった。私の中学校で身近に感じる機会があるといいなと思う。私の中学ではボランティアやっていること事態がすごくと特別なことになっているので、身近に感じる事ができていない。

AT) 私の学校では部活がけっこう忙しいので、誘ってもそもそもこれない。

JY) 高校生になると忙しい。誘っても遠いし、興味がない、という反応がある。今年で卒業したらアクターのスタッフもしたい。

WH) アクターのことを説明するのが難しい。

アクターをやってよかったこと！って？

ST) たくさん祭りのイベントを知って、楽しんでできる場所

MM) 自分の意見を積極的にいえるようになった。

戸部などは自分の意見は(ミニヨコの大人人口出し禁止と同じように)

TM) たくさん大人の人と交流できること。中学校にいてると先生以外の大人と話すことが少ない。またアクターをやっていると知らないまちにいていろんなまちをすることができる。

SS) 遠くに出かけられること、食べ物(その土地の)が食べられること。

KF) 面白いところは、自分の世界が小さく見える。いままでの自分の常識が通じないところについて

て、こんなことあるんだ、世界は広いな、と思う。またこどもの意見を大人たちが真剣に聞いてくれる場がある、それがレアなことだなと思います。

YM) 普通の高校生活ではできないことができる。

自分はいちさいころからミニヨコハマシティに参加していたんだけど、その原点のミニミュンヘンにクラウドファンディングで43万の資金をあつめ、ドイツのミニミュンヘンにいつてきました。そのDVDがようやく完成して、支援者の方に送ったところです。

ずっとまじめに取り組んできたので、最近すこしだらけてる、ところもあります。学校でも先生に「キミはまじめなのか、ふまじめなのかわからない、不思議なタイプ」とおもわれているようです。新聞に18才選挙に関する論説が載って、先生に「百崎くんは将来性があるから、どんなに不真面目でも大丈夫なんじゃないか」といわれた。

岩室) そのまま進んでいけば道が開けると思います。

TM) アクターを入れてよかったことは、社会に出て役にたつことが、たくさんあったこと、コミュニケーション能力がついたこと。

大人の人と話したり、イベントの内容とか決めるようなことが社会に出てからも役立つと思った。まちづかい塾は会議は大人対自分ひとりになってしまったときもあり、かなりプレッシャーでしたが、企画がなんとか進んでよかったです。

☆アクターでよくなかったこと

ありません、が多いですね。

KI) アクターをやっていたら休日がなくなった。

朝はやいことも多い。

YM) イベントの準備期間が短すぎる。もうすこしじっくりやりたい。広報の時間がじっくりとれなかったのも、

MA) お酒くさい人がたまにいる。それがイヤ。

最初のときには遠くまでいくのに朝がはやい。

HT) 会議は参加できるけど、本番が自分の都合でいけなかったことが残念だった。運が悪いんだと思う。

RY) 企画をじっくりしたい。休みをとったときに次回までの議事録などを送って欲しい。その方が、じっくりと企画に取り組めると思う。

事務局) 欠席した人に議事録を送るようにしたいなと思います。

TS) おもしろそうなイベントを逃してしまった。

湯河原とか。

☆大人の人にいいたいこと

ふらっとステーション戸塚

NO) スタッフの方の話しが早口すぎて、なにをいっているかわからなかった。こどもむけじゃない。

MM)アクターのことを、「特命さん」と言われてその呼び方がいやだった。

三浦

NO)ラリーの文章がわかりずらかった。こどもにもわかるように。

MM)昭和館の方がサイダーをくれてうれしかった。

MA)トイレのドアがすごい開きにくかった。

虹色さかな号にのせてもらったけど、気持ちわるくなっちゃった。

大倉山

KF)大倉山のハロウィンは、おもった以上に人数が多くて、想像以上に

中川西地区センター)

RY)布袋様の格好、福がいっぱいきていいとか、プラスなことをいってくれた。

NO)大黒天やったけど、寒い中、ただ歩くことになった。

前日に自分のマンションにポスティングして、

海の森・山の森、門島さん

遅刻されたときに、あやまってほしいなって思った。

忘れ物したとき、足りないものを買ってもらったときに、どうして「ありがとう」とていねいなお礼がないのかなとおもった。

打ち合わせがたくさんできたところは、うまくいってる。

ワンクッションあるような活動、たとえば福祉系とかそういった活動は、コミュニケーション

6. 推進会議からのコメント 7. まとめ

NPO 法人アクションポート横浜 北川さんコメント

あまり団体として係われていないのですが、報告会に参加させていただいて、ひとつひとつの活動に子どもたちが参加しているようすがすばらしいなと思っています。私自身はこの報告会にこれたのが5年ぶりくらいで、百崎さんが、小学校6年生だったと思うので、今日高校生になった百崎くんを見てころがざわついてます。それだけ続けていってることがすごいことだなんて思いました。それだけ関係性をつなげていって、先輩後輩もあるくらいになっている…。アクターのみなさんは成長するに連れ、環境も変わるし、まちや人との関わり方もどんどん変わってくるのかと思います。今回おもしろかったことをセンサーのように活かして、これからも地域の中がかかわってほしいなと思います。大学生や社会人になっても選択支がいろいろあると思うのですが、今回の活動で感じた「楽しい」「うれしい」ということが自分の選択の基準になっていったらいいんじゃないかと思いました。あと遊ぶ時間もしっかりとったほうがいいと思います。アクションポートは、大学生のボランティア育成をしているのですが、今日は学生を連れてくればよかった、と思うくらい、みんなしっかりしていました。

自分の経験としてかならず将来役にたつと思うし、もしもいったん離れても地域の中でなにかしたいと思うことがあると思う。もしも大学生や社会人になってなにかしたいと思ったときに、ぜひアクションポート横浜をたずねてください。

NPO 法人夢キューブ 高橋さんコメント

みなさんの活動を4年くらい前から拝見していて、みなさんの活動がみなさんの生き方にも影響しているのではないかと思います。それぞれいろいろな考え方の友だちもできたのではないかと思

います。みなさんの活動をこれからも見守っていきたいと思います。いい時間をいただいてありがとうございます。

スマイルミニシティプロジェクト 山家さんコメント

この活動をずっと見てきて、みなさんの活動はすばらしいとずっと思っています。自分のまちの活動で、5年間大学生と一緒にやってるのですが、もしもアクターのような人達が大学生になっても、一緒に活動をしてもらえたら、と思いました。

神奈川県青少年課 鈴木さんコメント

最初のころ、この事業に県として関わっていたのですが、いったん担当を離れて、また戻ってきました。そのときから参加している百崎くんが高校生になっていて私も胸がざわついてます(笑)、今回の発表を聞いて、アクターのみなさんにも団体のみなさんにもいい気づきがあったんだなとわかって、あらためてすばらしい事業なんだと感じました。さきほど、こどもたちの質問で、お友達を誘えるかどうかということがありましたが、この活動はやってみないとなかなかおもしろさがわからないという部分があるんだなと思いました。それに気が付いたら、楽しさがわかるんだと思います。今回かかわった中からアクターと一緒に地域で参加した子どもは、アクターの楽しさがつたわったのではないかと思います。アクターだけではなく、すべての活動で地域とこどもがつながっていけるといいなと思いました。受け入れ団体もこどもたちを入れることで楽しんで活動していけるといいなと思いました。

リスト株式会社:松本さんコメント

アクターのみなさんが学年にかかわらずどんどんしっかり進化されているようすにうれしく、頼もしく感じました。アクターのみなさんも受け入れ団体のみなさんもしっかりかみあっている様子は経年の進歩を感じました。

今年、とくに素晴らしいと感じたのは成果が出ている現場が多かったことです

横浜プランナーズネットワーク:山路さんコメント

地域で行っているすべての活動やイベントに、子どもたちはおきゃくさんではなく、運営者として参加できる。地域アクターの活動をみているとそんな自信を強くします。

戸部大通りの歌に出てくるカモン山。NHKの「おんな城主 直虎」の子孫、井伊カモンノカミナオスケを記念して、彦根の人々が寄付した公園に由来します。地域の歴史がつながるとラップにたましいが入ります。

県・商業課・鈴木さん

さきほどこどもたちの発言で、結果はうまくいかなかったけど、お友達ができうれしかったというようなコメントがあったのですが、それと似たことで、商店街の人達と「やらないよりはやったほうがいいよね」といってイベントなどをやると、どうしても結果に目がいてしまい、何人集まったとか、いくら売り上げがあったとか、思ったより人がこなかったら失敗ということになってしまうわけです。でもそれだと、大手のイベントには絶対勝てない。そうじゃなくて、みなさんは、やった過程でたとえば、知りあえない面白い人に会うことができたとか、知らなかったことがわかるようになったとか、そっちを評価してもらうのがいいのではないかと常々と思っています。

例えば、川崎のハロウィンでは、同じ日に駅では、13万人動員する日本一のハロウィンイベントをやっている、一方でハッピーサークルのある商店街では50人のハロウィンのイベントがあった。それを比べられない。ハッピーサークルでは、ベビーカーのおとうさんが「お店の人柄が温かかった」といってくれた。さきほど、アクターのみなさんも「みんなやさしい人だった」といってくれました。ということが商店街でやる意味なのかなと思っています。

どうしても大人だけでやると数とか規模で判断して、50人だったらやらないほうがいいと思ってしまふ。ブツブツ交換のイベントにしても子どもたちは一生懸命やってくれて、やってみたら、地域のみなさんが本当に喜んでくれた。子どもたちが入る事でそういうことがおこってくるのが本当にうれしい。みなさんも将来いろんなことをやると思うけれど、結果だけでなくその過程も大事にしてほしい、そういう評価もしてほしい、それが次回に役立っていくと思います。

NPO 法人ミニシティ・プラス 三輪さん

私たちは、この事業をどう続けていくかということを県とも相談しているところです。「子ども」という存在はどんな現場でもおきやくさんとして扱われることが多いのです。その「子ども」を対等な立場で担い手としてみていく、という方法論が大人側はとても難しいんです。

さきほど鋼管通でいい例として紹介させていただいたのですが、1年目はおきやくさんだった、2年目3年目になると事業をやるのが自分ゴトになってきて、そのときに地域の中学生が入って担い手になっていく、という流れです。

子どもたちと接するときに、さきほどは、子どもたちへの注意が難しい、という話もありましたが、なるべくならその場で注意したほうがいいでしょうとか、子どもとどのように対等な関係でやっていけるのか、そういうことが大人に身についていくといいと思います。

外からみると教育的なプログラムに見えてしまうようですが、大人と子どもの協働体制を、ともに育てあう、ということで事業を行っています。

今回、ミニシティ・プラスの杉山さんが大学院の研究としてまとめた内容でもあるのですが、子どもの参画というと、ロジャー・ハーツのはしごが有名ですが、実はそれは、子どもが主体になることが最高の状態というように書かれていて、大人との関わり方のステップが組み込まれてない、形式的な参加から子ども主体の参加という中で、大人の関わり方もステップになるんだ、そういうことも考えながら伴走していく、そういうコーディネートを、この事業の中で私たちも模索しながらやっています。

子どもたちのフリップで、自分の身近な家族、先生以外の大人と知り合いになれた、という人が何人か、いましたが、そういう人と出会うことができたこと、そしてその大人にどのように頼っていくか、また、大人をどのように使っていくか、大人の使い方をだんだん理解していったと思います。そういう大人と出会い、協働する経験ができる場所があることは、とてもよいと思います。また、地域アクターの世代だけでなく、大学生、また社会人、そしてさらにもうすこし小さい予備郡の人たち・・・すべてライフサイクルの中で、他者とのかわり方を知っていくことも大切だと思いました。

本日はありがとうございました。

【問合せ】

〒224-0001 横浜市都筑区中川 1-4-1-107 NPO 法人ミニシティ・プラス
Tel&Fax:(045)306-9004 メールアドレス minicityplus@gmail.com